

AMUA 保存資料①—資料の分類—

本連載No.30で述べたように、AMUA（愛知医科大学アーカイブズ）では今年度から保存資料の活用（公開）に向けた具体的な準備に着手しています。その経過報告も兼ねて、今回から数回に分けて現在AMUAが保存している資料の概要を紹介します。



AMUAは、学校法人愛知医科大学の歴史に係る各種の資料の収集、整理、保存、活用、調査・研究などを行うために設置されています。このためAMUAが保存する対象となるものは、原則として愛知医科大学の歴史に関係する資料群となります。これらの資料群を便宜的に分類するとおよそ右下図のようになります。

一般に、アーカイブズ組織が取り扱う資料群は、機関アーカイブと収集アーカイブの二種類に大別できます（本連載No.11参照）。いわゆる親組織による事務や事業活動の諸記録であって、時の経過などにより業務上の利用価値が低くなってアーカイブズ組織に移管される資料群が機関アーカイブと呼ばれます。右下図では「非現用法人文書」と表現されている資料で、アーカイブズ組織にとって基幹的な資料群の一つであるといえます。また、本学および学内組織などが印刷発行する刊行物（＝学内刊行物）や本学に関連する写真資料なども本学の諸活動を歴史的に跡づける際にとっても重要な役割を果たすため、機関アーカイブとして扱う必要があります。

一方これまで本学では、創立記念誌として『愛知医科大学十年誌』『躍進する愛知医科大学 創立二十周年記念誌』や本学初の本格的な大学史である『愛知医科大学三十年史』を刊行しています。このうち『三十年史』の通史編は先行した各記念誌や部局史編を踏まえながらも、事実上は基本資料の探索作業から始められたため「三十年史通史史料」といわれる一資料群を形作っています。

さらにAMUAでは、上記の資料群とは性質が異なる図書資料として、医学系を中心とした他大学の大学史や学報・広報誌なども収集保存しています。

